

マルイモの施肥法

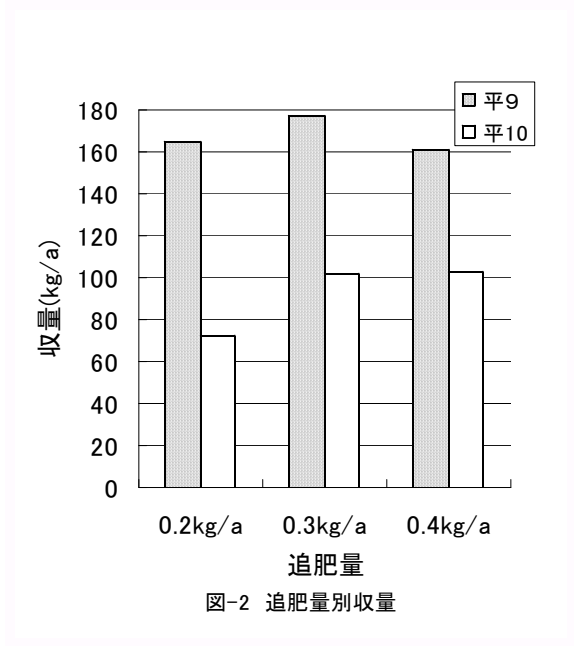
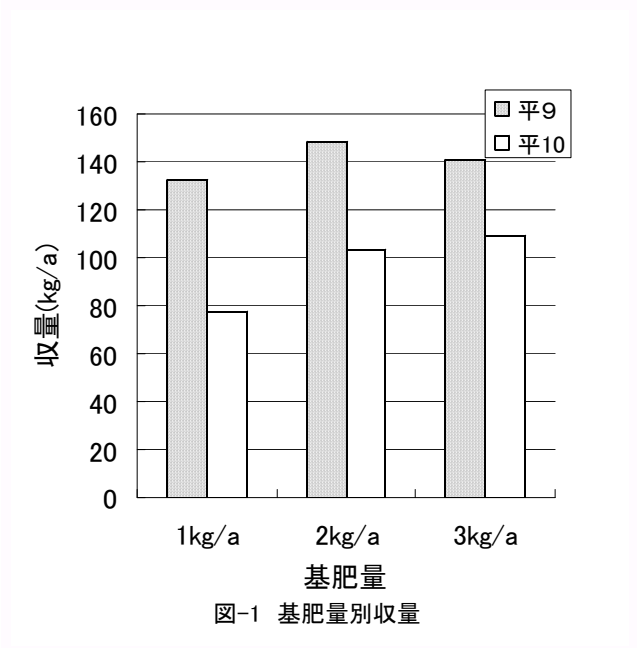
農業センター

1 取り上げた理由

マルイモ(ヤマノイモ, ツクネイモ)は転換畑での栽培が可能であることから転作作物として期待がもたれている。マルイモ栽培においては、形の整った品質の良いものを生産することが販売に有利であり高収益につながる。そこで、良質多収を目的としてマルイモの施肥法について検討したところ、成果が得られたので参考資料とする。

2 参考資料

- 1) 施肥量は窒素成分量で基肥は2kg/a, 追肥は0.3kg/a とする。肥料は基肥には CDUS555等の緩効性肥料, 追肥には燐硝安加里 S604等を使用する。
- 2) 追肥は新しいも形成期に株間に行く。マルチ栽培ではマルチフィルムに穴をあけて行う。新しいも形成期は新しいもの大きさが0.5~1 cm 程度の時期とする。新しいも形成期は5月下旬の植付であれば7月下旬頃になる。
- 3) 追肥時期が遅れるといもの形状が悪くなり、品質が劣るとともに、いもの粘度も低下する。



3 利活用の留意点

- 1) 追肥の際は茎葉に肥料がかからないようにする。また、茎葉を折損しないように注意する。

(問い合わせ先：農業センター農産部 電話022-383-8119)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題及び研究期間

地域特産物の選定と特性把握による栽培法の確立 平9～10年

2) 参考データ

表－1 基肥量別収量及び品質¹⁾

試験 年次	基肥量 (N成分量) (kg/a)	収量 (kg/a)	いも1個重		品質 ²⁾
			平均 (g)	最大 (g)	
平9	1	132.6	357	526	2.2
	2	148.3	400	604	2.2
	3	141.2	381	573	2.6
平10	1	77.9	124	186	2.5
	2	103.7	177	199	2.6
	3	109.3	206	229	3.2

1) 追肥：各年次とも7月下旬に窒素成分量で0.2kg/a

2) 兵庫県青果物標準出荷規格により分類し、秀を1，優を2，良を3，外を4とした。

秀：丸形で凹凸の少ないもの 優：やや変形で凹凸の少ないもの

良：変形で凹凸のやや多いもの 外：秀，優，良以外のもの

表－2 追肥量別収量及び品質¹⁾

追肥量 (kg/a)	追肥時期 ²⁾	平9		平10		
		収量 (kg/a)	品質 ³⁾	収量 (kg/a)	品質	粘度 ⁴⁾ (cP)
0.2	新しいも形成期	164.3	2.4	72.0	2.6	23280
	形成期14日後	158.4	3.0	79.4	3.0	20420
0.3	新しいも形成期	176.9	2.8	101.6	2.5	23232
	形成期14日後	153.7	3.1	90.2	3.3	13675
0.4	新しいも形成期	161.0	2.7	103.3	2.9	20325
	形成期14日後	146.1	3.4	104.3	3.6	14345

1) 基肥：各年次とも窒素成分量で2kg/a

2) 新しいも形成期：7月23日(平9)，7月28日(平10)

3) 表－1に同じ

4) N社製ラピッドビスコアアナライザーを使用し下記の条件で測定した。

- ・試料量 30g(とろろ状)
- ・分析温度 25℃
- ・分析時間 4分
- ・回転数 60(開始時)～480(終了時)rpm

3) 発表論文等

なし